

分科会名	研究主題「校種間連携による教育目標の具現化に向けて」		
第4分科会	～連携の充実に向けた教頭の役割～		
提言者	みやき町立北茂安小学校	氏名	城戸 幸一
協議の柱	①校種間連携充実のために考えられる教頭の役割について		
協議内容	<p>【グループの報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼保小中連携は継続されており、深まりも出てきている。現状では特別支援学級や発達障害を有する児童生徒が増えてきている。ここでこそ教頭の出番となる。それぞれの学校で「卒業させたら終わり。」ではなく時間がない多忙、と言ってもやる必要のあることであると職員に意識を持たせる。 ・ 教頭として関わっていない部分があるかもしれない。教諭としてできない部分を教頭が補う必要がある。連携のメリットを職員に伝え意識化する。4つの視点 ア広報活動 イ行事の見直し ウ連絡調整 エミドルリーダーのサポートで取り組みを行うことが教頭の役割。 ・ 教頭は連絡調整、スケジュール管理を行い、小中合同での授業研究、小6体験入学、中学校から小学校への授業乗り入れなど継続できる環境づくりを行う。必要であるという意義づけを教師に行うことも教頭の役割である。 ・ 職員間で「校種間連携がなぜ必要か？」を協議したり、行事をスクラップアンドビルドしたりする。教頭はセッティングを行うのも役目である。 ・ 小中が集まり、地域の方から指導を受けたり一緒に過ごしたりする。コミュニティを継続するため、必要な会議をプランニングしたり連携の連絡をしたりする。地域を巻き込んだ活動も教育活動に効果的な部分があるため。 ・ 小中だけでなく特別支援学校なども連携して、配慮を要する児童生徒に対する指導の在り方について助言が受けられる。小中のPTAが共同して資源物回収などを行う。これらの活動をコーディネートすることも教頭の役割となっている部分がある。 ・ 教頭、教務が合同で連携の会議を行っている。多くの小学校から1つの中学校へ集まる場合会議等の効率化にも役立つ。教頭は働き方改革も視点においても連携をすすめる役割がある。 		
指導助言者	みやき町立三根西小学校 校長	氏名	福山 信代 様
指導助言者からの助言内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 義務教育9年間で教師が児童生徒を育てるという意味で校種間連携は生きてくる。 ○ 小中教員の考え方の違いを補うために、中学校は小学校での指導経緯を知り、小学校では中学校で児童が困らないように指導する。お互いを知る必要。 ○ 年度ごとに人事異動があるが人が変わっても継続できる連携を構築するのが教頭としての役目になる。 ○ 課題として中1ギャップなどの解消 ○ 「人は他からの指示で動くのではなく、状況の理解と納得から動く。」職員に連携の必要性を理解させることが大切。 		